

NEWSLETTER

NO.34

7 JANUARY 2005

・2004 年地理学教室の行事記録	・ ・ ・ ・ 1
・第4回ジオグラフィック・アライアンスの開催	・ ・ ・ ・ 2
・中国文化大学との国際大学交流セミナーの報告	・ ・ ・ ・ 3
・2004 年度地理実習の記録	・ ・ ・ ・ 3
・卒業論文公開口頭試験について	・ ・ ・ ・ 6
・2004 年度卒業論文公開口頭試験日程	・ ・ ・ ・ 7
・国土館地理学会費の納入について	・ ・ ・ ・ 8

【2004 年地理学教室の行事記録】

2月12日～14日	平成15年度 卒業論文公開口頭試験
2月23日	修士論文公開口頭試験
4月29日	生物地理学野外実習（鶴川キャンパス：磯谷）
4月30日	世田谷の歴史地理巡検（世田谷区内：岡島）
5月29日	生物地理学野外実習（生田緑地：磯谷）
6月5日	9月卒業生公開口頭試験（10215 ゼミ室）
6月7日	国土館地理学会（於 世田谷キャンパス 6号館5階 6503 教室） ＜講演会＞ 大崎 晃氏（川村学園大学教授） 19世紀アメリカ捕鯨業の勃興・発展・没落 - 世界史の一齣（ひとこま） に対する地理学方法論適用の有効度に関する一考察 - ＜総会＞ 6号館 6503 教室 ＜懇親会＞ 1号館地下（スエヒロ学生食堂）
6月10日～11日	1年生地理学野外実習（川越市：長島・野口・長谷川・内田・岡島・磯谷・加藤）
7月13日	大学院巡検（江戸東京の歴史地理：岡島引率、内山・鈴木・劉が参加）
7月20日～28日	測量夏期集中実習（世田谷：中村非常勤講師）
7月27日～28日	第4回ジオグラフィック・アライアンス（長谷川・院生3名）
8月28日～9月10日	自主巡検（沖縄県・石垣島：長谷川）
10月19日	大学院修士論文中間発表会（発表者：鈴木・内山） 第1回大学院コロキウム（発表者：今井・劉）
10月5日～6日	2年生地理学野外実習 （千葉県北総地域：長島・長野県霧ヶ峰高原：野口・長谷川、栃木県藤原町：内田、本 海野宿・碓氷峠：岡島、長野県蓼科方面：長岡、東京都江東区：加藤）
10月26日～29日	3年生地理実習 （日光市：長島、上越市：野口、伊豆大島：長谷川、松江市・米子市：内田、兵庫県南 部：岡島、伊豆半島：長岡、苫小牧市：加藤）
12月13日	国土館地理学会（於 世田谷キャンパス 6号館5階 6503 教室） ＜講演会＞ 中井達郎氏（国土館大学・岐阜大学非常勤講師） エコツーリズムは自然にやさしい観光か？ - 現状と課題 - ＜ゼミ発表＞ 川島尚悟、小野偉子、久谷仁美、藤田泰文、公塚裕幸、小早川享泰、嶋 田悠希 ＜懇親会＞ 1号館地下（スエヒロ学生食堂）

重要事項！必ず読むこと！

研究室、図書館から借りだしている書籍・備品は口頭試験の前（2月初旬）までに必ず返却して下さい。
4年生で未返却の者は、卒論口頭試験が受けられません。

【第4回ジオグラフィック・アライアンスの開催】

「授業で使える衛星データ:無償ソフトで作るリモセン画像」社会科教員のための環境リモートセンシング・ワークショップ」

大学の研究成果や教育の成果を、社会・教育界へ還元する、という主旨で始まった「ジオグラフィック・アライアンス」も、2004年で4回目を迎えることになりました。中・高の先生方を対象とした催しですが、さまざまなメディアで情報が伝えられることもあって、先生方だけでなく民間のシンクタンクや会社関係の方々も参加されるようになってきました。当教室の事業が社会的評価を受けていると自負できるかと思います。

昨年度は、「『地域調べ』の方法を探る」というテーマで開催しましたが、今年度は第1回目と同じ、リモートセンシングをテーマに行われました。ただし、リモートセンシングやGISをめぐるここ数年の環境の変化は大きく、今回は基本的にフリーソフトとフリーデータを使って世界を眺めてみようということにしました。

ここにちでは、1万シーンにも及ぶランドサットデータが無償で利用できます。これまで「GISやリモセンは、金がないと何もできないんじゃないか」と思われがちでしたが、リモセンデータに関してもブロードバンド（高速・大容量通信）の普及で、無償で公開されている大量の衛星データが、いとも簡単にダウンロードできるようになりました。また、ビューアという画像表示ソフトも、自社の解析ソフトの普及をもくろむメーカーが、正規の製品に近い性能を持つソフトを無償で提供しており、インターネットでダウンロードできます。また、フリーの優れた解析用ソフトも登場するようになってきました。PCで合成画像を作ったり、教材を作ったりすることが目的なら今や「リモセン無銭旅行」が世界中で可能なのです。

7月27日（火）、28日（水）の2日間にわたり、23名の方々に参加していただき、第4回ジオグラフィック・アライアンスは無事終了しました。リピーターとして参加してくださる先生方もあり、今後も継続的に実施することが期待されています。

（長谷川均）



端末室での講義風景

懇親会（7月27日講義終了後）



【中国文化大学との国際大学交流セミナーの報告】

地理学教室では、2004年9月10日（金）から9月16日（木）までの期間、本学の海外協定校である中国文化大学（Chinese Cultural University；台湾・台北市）を訪れ、「国際大学交流セミナー」を実施しました。2001年9月～11月に実施されたデ・ラ・サール大学（フィリピン・マニラ市）との国際交流（相互訪問）に次ぐ、地理学教室独自の国際交流プログラムです（実施にあたっては本学国際交流センターに全面的な協力をいただいた）。

教員2名（野口、加藤）、院生1名（女子）、学生10名（男子6名、女子4名）の計13名が参加して、中国文化大学ならびに台湾各地を訪問しました。地理学的巡検を中心とした訪問プログラムが、中国文化大学地理学科・教室主任・薛益忠先生（Dr. Hsueh Yi-Chung）をはじめとする、中国文化大学スタッフの献身的な協力によって可能となり、実り豊かなセミナーとなりました。訪問日程・訪問先の概要は以下の通り。

- 9月10日 成田空港集合・出発。中正国際空港到着・歓迎。中国文化大学訪問。歓迎会。大学寮に宿泊。
- 11日 台北市周辺巡検：淡水港、北投温泉、故宮博物院、内湖（ソフトウェア工業団地）、龍山寺など。
- 12日 台中巡検出発。大湖（ガス田）、三義（木彫の町）、霧峰（921地震跡）、埔里（台湾の地理的中心）、日月潭など。景聖楼ホテル泊
- 13日 文武廟、玄奘寺、慈恩塔、水里蛇窯、集集線乗車、阿里山山岳道路。阿里山青年活動中心泊
- 14日 阿里山日の出見学、巨木公園、阿里山鉄道・奮起湖駅、鹿港（古都・港町）。台北帰着。寮宿泊。
- 15日 大学ツアー。両校教員・学生の交歓会。基隆巡検：基隆港、碧砂漁港。台北市・西門、士林夜市。
- 16日 中正記念堂。国立中国工藝センター。中正国際空港出発、成田空港到着。現地解散。

なお、より詳しい報告や準備段階から後日の事後学習会までの経緯と問題点などの総括は、「2004年度国際交流セミナー（中国文化大学）に関する報告と覚書」として、2005年3月（卒業式前）に発行される『国土館大学地理学報告』第13号に掲載される予定です。

訪問時の写真は教室HP・「地理学教室写真帖」の頁内に掲載されています（<http://bungakubu.kokushikan.ac.jp/chiri/HPphoto/04SepTaiwan/page.html>）のでそちらを参照ください。

また中国文化大学のHPにも訪問の様子が掲載されています（動画ニュースもあり）。

9月13日 台湾・大学への到着時の様子 <http://epaper.pccu.edu.tw/index.asp?NewsNo=5475>

9月15日 両校交歓会の様子 <http://epaper.pccu.edu.tw/index.asp?NewsNo=5495>

（加藤幸治）

【2004年度地理実習の記録】

1年生・地理学野外実習A：6月10日（木）、11日（金）実施

長島・野口・長谷川・内田・岡島・磯谷・加藤

実施地：川越市

参加学生数：71名（男子56名、女子15名）

テーマ：小江戸川越をあるく

内 容：1．土地利用分布をもとに、調査地域をいくつかの地域に区分し、それぞれの地域の地域特性を明らかにする。

2．路上観察や街並みの観察などをもとに、川越が重要伝統的建造物保存地区に指定され観光地化されたこと、さらに川越が「小江戸」と呼ばれることの持つ意味、について考察する。

課 題：A4版（横書）用紙を用い、図表等を含めて7枚以上のレポートを作成する。

2年生地理実習：10月2日（水）、3日（木）実施

長島

実施地：千葉県北総地域（市川・船橋・八千代・佐倉・印西）

参加学生数：12名（男子10名、女子2名）

テーマ：都市近郊地域における緑地（斜面林・平地林・谷津田・里山）の現状と今後の課題

内 容：都市化の進展に伴って斜面林・谷津田がどのように変化していくかを、次の地域を中心に観察し、考察する。市川市真間地区におけるマンション建設と斜面緑地の保全、船橋市坪井地区における大規模開発、印西市結縁寺地区の斜面林と谷津田。

課 題：8,000字程度（含む図・表・写真）のレポートを提出すること。

野口・長谷川

実施地：霧ヶ峰高原

参加学生数：25 名（男子 23 名、女子 2 名）

テーマ：霧ヶ峰高原を例に本州亜高山帯における自然環境を理解する。

内 容：霧ヶ峰自然保護センターでの説明、偏形樹や周氷河現象の観察・計測、霧ヶ峰高原全体の植生観察を通して次のことを理解する：1）霧ヶ峰高原の地質学的・地形学的位置づけ、2）霧ヶ峰高原の気候学的位置づけと生態系、特に風、地形、積雪、凍結融解、植生の相互関係、3）霧ヶ峰と人的関わり（縄文時代から今日まで）。

課 題：指定論文（3 編）、地理実習資料、現地での説明・観察をもとに、霧ヶ峰の植生分布に影響を与える地形・気候・人間活動の役割を説明する。

内田

実施地：栃木県塩谷郡藤原町

参加学生数：6 名（男子 6 名、女子 1 名）

テーマ：温泉観光地の風景とその意味

内 容：1．風景論の基礎、および風景の観賞方法について実習する。

2．温泉観光地および観光地としてのテーマパークの存在意義を記号論的に解説する。

課 題：1：鬼怒川温泉および川治温泉の風景の意味について、2：観光地の記号としてのテーマパーク

岡島

実施地：海野宿・碓氷峠（長野・群馬県）

参加学生数：12 名（男子 10 名、女子 2 名）

テーマ：上信地方における交通路・交通集落の歴史の変遷

内 容：碓氷峠越え交通路の意義と実態を理解するために夏休みに事前学習を行い、1,600 字以上でまとめる。

第 1 日：海野宿において班単位（2 名）で、歴史的町並みの現状と近代以降の変遷に関する調査（町並みの観察と聞き取り）を行う。

第 2 日：午前「旧中山道を歩く―沓掛旧一里塚～軽井沢宿―」の巡検実施。軽井沢町郷土資料館見学
午後「アプトの道と旧中山道を歩く―横川駅～旧碓氷第三橋梁～坂本宿～横川駅へ―」巡検
鎌倉文学館（旧前田侯爵別邸）の見学。

課 題：町並み調査結果の地図をつくり、標記のテーマについてレポートを作成する。

長岡

実施地：長野県蓼科方面

参加学生数：13 名（男子 11 名、女子 2 名）

テーマ：山地帯から亜高山帯にかけての植生

内 容：蓼科地域の山地帯から亜高山帯にかけての森林および草原について、おもな植生型の組成・構造・分布・立地・動態などを調べた。

課 題：亜高山帯および冷温帯上部森林植生、草原植生について、種組成、構造、遷移を中心にとりまとめる。

加藤

実施地：東京都江東区。特に区立川南小学校区（千石 2・3 丁目、千田 16-23 番、海辺、扇橋 3 丁目）

参加学生数：12 名（男子 10 名、女子 2 名）

テーマ：江東区におけるマンション立地の現状

内 容：急増するマンション建設計画に対して、2002 年に「江東区マンション等建設指導要綱」を改正し、「良好なまちづくり」を模索している江東区において、マンション急増の要因・問題点、さらにはそれへの対応等を、マンション立地の現状等の調査を通して学び、都市における土地利用変遷とそれに関わる問題に関する都市経済地理学的な研究手法を実践する。

課 題：調査結果に関する地図を作成するとともに、調査結果にもとづいた内容についてレポートする。

3年生地理実習：10月21日（火）～24日（金）実施

長島

実施地：栃木県日光市および周辺地域
参加学生数：5名（男子5名）
テーマ：各自の設定したテーマ
内 容：各自の設定したテーマにそっての資料収集および現地での観察
課 題：12,000字（含む図・表・写真）のレポートを提出する。

野口

実施地：新潟県上越市（特に高田地区）
参加学生数：11名（男子6名、女子5名）
テーマ：上越市およびその周辺における小気候調査
内 容：高田測候所の各気候要素の永年データを用いたグラフ化と問題点の指摘、高田測候所の見学、早朝・夜間の都市気温観測、各自のテーマによる資料収集
課 題：各自のテーマでレポートを作成する。

長谷川

実施地：実施地：伊豆大島
参加学生数：8名（男子7名、女子1名）
テーマ：（1）伊豆大島の海浜地形（海岸地形班）、（2）溶岩流の形態的特徴（火山地形班）
内 容：（1）3つの海浜で堆積環境、海浜地形、堆積物を比較、計測した。
（2）時代の異なる溶岩流、1986年溶岩流の山頂から最下部までなど各所で、強度、色、分光特性、3D計測による表面の形状などの諸特性で比較した。
課 題：20枚程度のレポートを提出する。

内田

実施地：米子市周辺
参加学生数：10名（男子7名、女子3名）
テーマ：各人でテーマを設定する
内 容：各自が設定したテーマに基づいて論文作成に必要なデータ収集のための現地調査を行う。
羽合温泉の場所イメージ、鳥取砂丘におけるラクダの意味、松江市における観光客の観光ルート、新人公務員による松江市のイメージ、玉造温泉の観光化、倉吉の観光と小京都イメージ、米子市街地の店舗立地、出雲市駅周辺の都心機能、出雲の風水、祭祀施設から見る村落空間
課 題：各自のテーマに基づいて、研究論文としての体裁を整えたレポートを提出する。

岡島

実施地：兵庫県南部
参加学生数：11名（男子10名、女子1名）
テーマ：兵庫県南部の各地における地域調査
内 容：各自が設定したテーマに基づいた資料収集、聞き取り等の調査。神戸港・旧居留地の歴史地理的見学。
第3セクター鉄道の現状、旧城下町の明治以降の変容過程（姫路・赤穂）、旧居留地とその後の変化、中近世の尼崎（港町から城下町へ）、神戸市の交通網の変遷と役割、尼崎駅周辺開発の比較、震災復興による再開発の現状、震災復興後の歴史的町づくり、阪急沿線の住宅地開発、ため池景観の形成と現状。
課 題：各自が設定したテーマについてのレポート作成

長岡

実施地：静岡県南伊豆町方面
参加学生数：8名（男子6名、女子2名）
テーマ：南伊豆の生物地理
内 容：南伊豆方面の生物地理（植生や動物）について、参加者各自の計画にもとづいて調査を行った。
課 題：各自のテーマについて、A4版30枚程度のレポートを作成する。

加藤

実施地：北海道苫小牧市
参加学生数：10名（男子8名、女子2名）

テーマ：苫小牧市とその周辺における地域調査

内 容：各自が設定したテーマにもとづいた現地調査。

苫小牧市における宿泊施設の立地と分布、苫小牧市中心市街地における商店街の衰退と中心の移り変わり、苫小牧市の飲食店の立地状況、企業城下町・北海道苫小牧市の工業 - 王子製紙と苫小牧市の関係を中心に -、苫小牧市のホッキ貝漁業の現状と課題

課 題：各自のテーマについてレポートをまとめる。書式は『卒業論文の手引き』にもとづき、20 枚以上。

国土館地理学会巡検

第1回（引率者：岡島）：4月30日（水）実施

実施地：世田谷区内

参加者数：4名（男子1名、女子3名）

テーマ：世田谷の歴史地理

内 容：豪徳寺・世田谷城址・世田谷区立郷土資料館・世田谷代官屋敷の見学、三軒茶屋道標の見学、等々力溪谷・等々力不動・野毛大塚古墳の見学、田園調布住宅地の見学

【卒業論文公開口頭試験について】

地理学教室では、卒業論文の審査が公平になされるよう各々の論文を2名の教員が閲読し、さらに公開口頭試験の結果を加味して合否を決めています。今年度も下記の通り、卒業論文の口頭試験が行われ、試験の結果から卒論の評点が決まります。試験は、持ち時間9分の口頭発表とそれに続く質疑応答です。発表者はあらかじめ卒論の要旨、図表などをまとめたレジュメを用意し、出席者に配布できるよう準備してください。また、質疑応答の際に必要な卒業論文のコピー、その他卒論作成に使用した資料や参考文献のコピーなどは、必ず持参してください。（公開口頭試験の際に提示を求められる場合があります）。これらは、卒論の合否が決まるまで処分しないこと。

就職が決まり、試験当日に社内研修などが予定されている4年生は、就職予定先に事情を説明し、研修欠席の手続きを済ませておくようにしてください。

なお評価の結果、優秀な卒論2編は、全国地理学専攻卒論発表大会（2005年3月17日・東京学芸大学）で発表してもらうことになります。発表者は、2月16日中に決定し、すぐに通知します。

日 時：2005年2月14日（月）13：00～、15日（火）、16日（水） 9：00～

場 所：世田谷校舎 10号館2階 10204教室（階段教室）

注意事項（よく読むこと）：

試験時間は、1人18分（発表9分、質疑応答9分）である。発表者は発表用原稿を必ず用意し、あらかじめ発表の練習をしておくこと。発表の内容はもちろん、発表の手際や発表の態度なども審査の対象となる。（発表時の予鈴7分、本鈴9分）。

発表に際しては、かならず以下の要領でレジュメを用意しておくこと。レジュメはワープロによって作成することが望ましい。

1. レジュメは、論文題目、氏名、論文の要旨（目的・方法・結果を書く。字数が多くなりすぎないように、計800字程度を目安にするとよい）、説明に使用する図表によって構成する。
2. レジュメの枚数は、A3サイズで2枚、横書き（図表を含む）とし、各自40部ずつ用意する（自費でコピー：図表がカラーでないと凡例等が読み取りにくい場合はカラーコピーをするか、または口頭試験用に書き直すこと）。
3. レジュメは、発表者交代の合間に、当該発表者の次の発表者が配るものとする。その際、まずはじめに教員に配ること。

発表では、スライドやOHP、PCプロジェクターも使用できる。使用希望者は事前に専攻主任（長谷川）またはゼミ担当教員に申し出ること。なお、PCプロジェクターを使う場合、ノートPCは各自で用意すること。また、ディスプレイの設定等が必要なため、PCのマニュアルをよく読んで設定方法を確認し、発表までに動作確認等しておくこと）。

3年生は卒論作成の参考のため、また来年の口頭試験のためにも、全員2日以上出席すること。1、2年生もできるかぎり1日以上出席すること。

【卒業論文公開口頭試験日程】

番号	氏 名	題 目	主 査	副 査
2月14日(月) 13:00～15:30 <進行:岡 島>				
1	馬渡 明	伊豆半島における東岸と西岸の気候特性の違い —房総不連続線との関係を中心に—	野 口	長谷川
2	土屋 純子	ナマコは環境悪化の生物指標になるか - 石垣島白保サンゴ礁海域のナマコの分布を事例に -	長谷川	野 口
7	池田 将基	静岡県岳南地方における工業の発達と港湾	加 藤	岡 島
9	原 光雄	相模湾におけるマリンレジャーの普及と影響	長 島	加 藤
14	工藤 祐介	柏市西柏台における消費者購買行動	内 田	長 島
15	押尾 隆章	千葉県御宿町における民宿型観光地の形成と衰退	内 田	長 島
18	左部 貴士	群馬県における農産物直売所の成立と農家への影響	長 島	加 藤
21	和島 真澄	富士馬車鉄道の形成過程と沿線地域の変遷について	岡 島	内 田
15:40～18:00 <進行:内 田>				
26	反橋 慶貴	札幌市における地下鉄延長による地域への影響	加 藤	岡 島
28	塩田 昌和	小地域における降水量の局地性について - 茨城県北部の花園を例に -	野 口	長谷川
31	清水 記久	横須賀城下町の歴史的変遷と地域構造	岡 島	内 田
33	石月 拓洋	越後駒ヶ岳における雪崩地形の分布と特徴 - アバランチ・シュートと筋状地形を例に -	長谷川	野 口
34	上田季美恵	地震災害における避難場所の安全性評価 - 船橋市・市川市・松戸市・鎌ヶ谷市を事例に -	長谷川	野 口
37	石川 直幸	観光振興計画における沖縄観光産業の変化 - 那覇市に展開するウィークリー・マンスリーマンションの実態 -	長 島	加 藤
38	本田 智子	東京都及びその周辺地域の夏季の降水特性について	野 口	長谷川
40	花形 均	大型商業施設立地による地域商業への影響 - 海老名市の事例 -	加 藤	岡 島
2月15日(火) 9:00～12:00 <進行:長谷川>				
41	渡辺 美穂	横浜市の高齢女性における観光行動の空間的パターンと特性	内 田	長 島
42	長本 博之	神奈川県における都市域と観光地の交通渋滞の違い	長 島	内 田
44	塩原由依子	三重県伊勢市における生活環境評価	長谷川	野 口
45	菅原 誠一	現代日本における鉄道貨物の役割 - 京葉臨海鉄道と神奈川臨海鉄道を比較して -	岡 島	加 藤
47	中村 章吾	近世佐倉城下町における都市構造の変化 - 江戸時代から明治初期にかけて -	岡 島	長 島
50	菊地 広	神奈川県葉山町上山口集落の民間信仰	内 田	岡 島
51	碓田 真一	川越市における中心商店街の変容と来街者の変化	加 藤	長 島
52	西 菜保美	青梅街道沿いにおける建築物スカイラインの形成要因	加 藤	内 田
53	増子 恵一	日本硫黄沼尻鉄道の成立と機能変化	岡 島	加 藤
55	島倉 洋介	新駅開設と周辺地域の変化 - 東新川駅を事例として -	岡 島	内 田
13:00～15:10 <進行:加 藤>				
60	秋山 功治	ヒートアイランド現象と土地利用・天候との関係について - 東京都立川市と日野市の一部を例に -	野 口	長谷川
64	中山 裕康	鶴見川水害予防組合の活動	岡 島	長谷川
65	齋藤 諒	新河岸川と人々との関わり - 信仰・産業・生活・余暇・舟運を中心に -	岡 島	内 田
69	佐藤 純平	東京都目黒区における家庭用ゲーム小売店の立地	加 藤	内 田
73	藤澤 穂高	旭川市における公共交通機関の機能と役割 - バス交通を中心として -	岡 島	内 田
74	林 聡子	東京都台東区における子どもの遊び空間の三世代変化	内 田	長 島
75	長沢 直人	新潟県柏崎市における人工改変を受けた地形の特徴 - 4時期の地形図をもとにしたGISによる解析 -	長谷川	野 口
15:20～17:30 <進行:内 田>				
76	北澤 雄一	神奈川県におけるショッピングモールの立地と特性について	岡 島	長 島
77	中島万里絵	首都圏における降水量の分布と時間変化の諸特性について	野 口	長谷川
80	徳永雄一郎	棚田の保全とオーナー制度の継続性 - 長野県千曲市姨捨地区を事例に -	長 島	加 藤
81	塩野 健太	甲州道中蔦木宿の変遷過程	岡 島	内 田

82	松田 竜典	神奈川県川崎市における構造変化 - 空洞化対策を中心に -	長 島 加 藤
83	上原 健一	ミクロスケールから見た繊維産業衰退の実状 - 栃木県佐野繊維産地を事例に -	加 藤 長 島
85	瀬戸 孔明	山口県防府市におけるみかん農業の新進	長 島 加 藤
2月16日(水) 9:00~12:00<進行:岡 島>			
86	松本 卓三	グリーン・ツーリズムの展開 - 千葉県三芳村・鴨川市を事例に -	長 島 長谷川
89	鈴木 俊之	東京湾アクアラインと房総の観光産業の現状	加 藤 内 田
3	藤田 陽介	山梨県北都留郡の水道水源林におけるニホンジカの樹木剥皮	長 岡 長谷川
4	小林 俊輔	山梨県北部乙女高原の尾根型斜面に成立する林分の構造と更新	長 岡 野 口
12	間島 利倫	ミズナラ林とカラマツ林の景観の変化について - ミズナラの種子散布方法に着目して -	長 岡 野 口
13	片山 容輔	三浦半島二子山付近における南、北斜面間の比較による常緑および 夏緑広葉二次林の主要構成樹種の違い	長 岡 野 口
16	天野 翔	島根・広島両県の江の川中・下流域における河辺植生	長 岡 長谷川
39	牛木 拓真	東京都草花丘陵における谷頭凹地の樹種構成の特徴	長 岡 野 口
48	富田 崇	山梨県松姫峠付近の落葉広葉樹林における主要構成樹種の更新状況について	長 岡 野 口
68	保立 優子	静岡県伊豆半島北東部におけるニホンイノシシによる農作物被害と 被害対策の現状	長 岡 長谷川

【国土館地理学会費の納入について】

下記に掲げる者は、国土館大学地理学会費が未納となっておりますので、至急お支払いください。

地理学教室では、4年分の会費を納めていない学生については卒業を認めておりません。いずれ必ず払うこととなりますので、早めに納入することを勧めます。

次の要領で、1月末までに郵便振替で、全員必ず会費を納入するようにして下さい。期日内に納入しなかった者については、保護者宛てに督促状を送ります。

振替用紙は郵便局にあります（「口座番号：00150-7-161762、加入者名：国土館大学地理学会」と記入）。

（注：疑問の点は会計担当の内田まで連絡して下さい。なお、上記は12月16日現在の未納者です。）